



温故知新



現 地 一 人 K Y

《 自問自答集 》

●作業前にKYを実施すること

- ①墜落しないか、転落しないか？
- ②落ちてこないか、倒れてこないか？
- ③挟まれないか、巻き込まれないか？
- ④切れないか、こすれないか？
- ⑤転ばないか、踏み抜かないか？
- ⑥ぶつからないか？
- ⑦関電しないか、ヤケドしないか？
- ⑧腰を痛めないか？
- ⑨その他ないか？



(工具・工程ごとの危険の洗い出し)

自分の身は自分で守る！

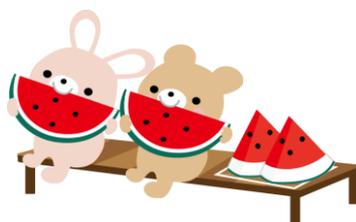
家族のため、会社のため、

そして、お客様のため……

現地に行ったら必ず一人で現地KYを行うようにして下さい。

【今号の主な内容】

- P① 現地KY
- P② 言わないとケンでござル
- P③ パトロール
- P④ ことわざ



発行

野田工業 株式会社
 東京都中央区銀座6-6-19
 花菱ビル5F
 TEL : 03-3572-1866
 FAX : 03-3575-0420

『言わないとキケンでゴザル』

皆さんの作業所には、今、何人位の仲間がいますか？

職種、年齢や性別、経験など、きっと様々ですよね。また、毎日見る顔や新規の方やその日一度限りの方も。

作業所では、この様に多様な人が働いている事は改めて言うまでもありませんが、日々挨拶や会話をする相手は、意外と限られていたり、朝礼以外は、自分が作業する場所と詰所の行き来が殆どでありませんか？

さて、今年は、申年ですから年賀状でたくさんのサルを見たと思います。昔から伝えられている、「見ざる、言わざる、聞かざる」のサルの絵も見かけたかもしれません。

この言葉の意味は、わざわざを招く様な余計なことを、見ない、言わない、聞かないという事だと思いますが、皆さんの仕事場に当てはめるとどうでしょう。

現場では「確かにそうだ！」と思う場面もあるかもしれません。

でも「安全や環境」という視点ではどうでしょう。

毎日同じように見えても現場は完成に向かって少しずつ変化していきます。

ですから安全面、環境面どちらも注意すべきところも毎日少しずつ変わっているはず。例えば、新しくできたばかりの開口部にまだ養生手すりが付いていない、ノッチタンクから排水が溢れそうになっている、といった事に気が付いたとしても、「自分が気を付ければいいか」、「監督に言うと自分の仕事が遅れるから黙っておこう」などと判断してしまうと、誰か別の人が同じことに気づき誰かに伝えるまでの間に、もしくは誰も気付かずに「事故」になってしまいます可能性があるのです。ちなみに、ヒトとの遺伝子が2%しか違わないと言われているサルの仲間である、ゴリラやチンパンジーは、基本的に家族・グループで群れをつくっていますが、外敵などの危険に対しては、直ぐに伝達され行動に移すそうです。

命に係わるから当然ですよ。では、皆さんの現場は？

建設現場は、家族運営ではありませんが、色々な職種の人が関わってひとつの大きな目的に向かっていくという意味では、大きな家族と言えるでしょう。自分の小さな気づきも同じ現場で働く他の仲間やその現場全体、すなわち家族を守る事だと思えば気が付いたことを伝えずにはいられないはず。

今年は、せっかくの申年、皆さんから率先して「よく見て、よく話し、よく聞いて」、作業所内のコミュニケーションを良くしてみたいかがでしようか？

きっと、「事故」を未然に防ぐ可能性が格段に上がり、仕事の成果もより充実したものになると思います。心がけてみてはいかがでしょう。

【パトロール】

平成二十七年五月二十三日、野田工業(株)研究会のみなさんと安全パトロールを行いました。

【現場名】上智大学四谷キャンパス
初夏の現場の為、現場内の熱中症対策等がしっかりと行われていました。



ことわざ・格言にならう安全衛生訓



牛首を懸けて馬肉を売る

●「安全第一」に偽りなし

「牛首を懸けて馬肉を売る」とは、牛の首を看板に掲げて牛の肉を売っているように見せかけて、実は馬の肉を売っていた。看板に偽りあり、ということですが、同様に「羊頭を掲げて狗肉を売る」とも言います。

言うことと行うことが違うという時にも使われることわざです。

私たちの事業所や職場には、安全の旗や、「安全第一」とか「安全最優先」などのスローガンが掲げてあります。

これは、私たちの職場では安全を最優先して仕事をしている、ということの内外に宣言している看板です。単なる目標や理想の旗印ではないはずで、私たちの日常の作業態度が安全を無視したり軽視していれば、「牛首を懸けて馬肉を売る」のことわざ同様の「偽装」ということになります。

「安全第一」のスローガンや安全旗のもとで作業を行う私たちは、文字通り「安全第一」、「安全最優先」の態度と方法で作業を行うよう習慣化し、無事故・無災害の職場を築いていきましょう。

きゅうじん いっき 九切の功を一簣に欠く

●一回の手抜きが大事故に

九切とは「高い」という意味で、簣とは、土を運ぶ「もっこ」のことです。

十中八九まで出来上がって、あと一息というところで、手抜きをしたために、全部が台無しになったという場合に使われることわざです。

「百日の説法屁一つ」というのも同じように使われます。

日ごろ立派なことを言っている、人前でうっかり屁をすると、一切が帳消しになってしまいます。

職場でも、いつもは決められた通りに、きちんと安全作業をいていたのに、たまたま一度の手抜きで事故を起こし、すべてが駄目になってしまった、ということがあります。

過去何十年来、安全に気を配って、健康に暮らしてきたのに、一度の誤り、一度のケガで不自由な体になってしまった・・・まさに、九切の功を一つのケガで台無しにした、ということになります。くれぐれも安全の手抜きをしないようにしましょう。

